

日豊魂

日本体育大学
東京都同窓会報

第28号

令和5年3月1日発行
発行者 東京都同窓会会長

会長挨拶
日本体育大学
東京都同窓会
会長 高田 幸一



「コロナ禍乗り越えて活動」

早春の候、各会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より東京都同窓会にご支援ご協力を賜り心より感謝しております。コロナ禍で大学の対応はレベル2となりましたが、依然として大学施設は使用で

きない状況にあります。今年一年、執行部会は、近郊の施設を借りて行い、東京都同窓会の主な活動である教育支援委員会は、学生が参加しやすいように用賀の貸しビルを使用して行っています。

さて、新型コロナウイルス感染症防止期間の約三年間は、従来行われてきた同窓会活動に大きな変革、特にオンライン活用を求めた時代と言えます。すでに教育現場は、企業、大学と教育機関では遠隔化が進み深化しています。また、この状況で先輩方の長年の願いである同窓の活動場所が必要だと再確認しました。これは、本部にも求めるものです。昨年、紙面で報告しま

したが、地区幹事役員の協力がこれから重要になってくると痛感しています。情報化が進展する一方、顔の見える活動、可視化、特に個人対個人の関係が組織を動かす、人の心をとらえるものが必要であり活動の原点となっています。

このコロナ禍の三年間で、末端になればなるほど活動が阻害され、人間関係が希薄となり帰属意識も薄れた状況です。この状況を打破するためには、新たな求心力となる組織・経営計画と人材育成、この日豊魂を読まれる方々の協力が必要で

す。幸い少しずつですが人材は育っています。今後、具体的には、世代にも共感できる新たなコミュニケーションづくりを目指し、地域、特に顔の見える情報と活動をつくるのが急務です。そのためには

①地域の活動をタイムリーに取り上げ発信できる ホームページ ②ホームページ等で教育支援委員会が直接、地域と同時に情報共有し、必要な情報のやり取りできる環境整備 ③Zoom会議の開催、公開、日豊魂のように大学、保護者会との連携・公開 ④これらのネット環境を維持管理するために継続的な経費と人材が必要です。

同窓会の組織も余力のある時に必要な組織の在り方を見直し、昨年度末より執行部の活動を公開しています。さらに、十二月二十四日、用賀のリロ会館で教育支援委員会は、保護者会にも会議に参加して頂き、学生に良い環境づくりを共同して行っています。東京都同窓会は、次年度は広報委員会を教育支援委員会とともに活動の重点としさらに改善してまいります。

まだまだ、課題はありますが、今までの人的財産と知的財産を活かし、

新しい人材を育成していきます。今後とも、皆様のご意見等を聴き変化する東京都同窓会にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京都同窓会
総会を終えて
東京都同窓会
副会長 小橋川 和子

東京都同窓会、東京都保護者会、合同の定期総会が三年振りに六月十二日田町アリスアクアガーデン(田町センタービル)にて開催された。コロナ禍で大学構内の入校の許可が下りず対面での開催を強く望む同窓の熱い思いから今回は外部会場での開催となった。十二時より十三時まで東京都同窓会総会、十五時より保護者会共催での講演会であった。

全体会、総合司会は角杉副会長のもと大瀧副会長の開式の辞で始まり冒頭 同窓会の物故者へ

長年の貢献に感謝し黙とうを捧げた。

東京都同窓会 高田幸一会長、続いて東京都保護者会会長 横川英恵様、大学側からスポーツ文化学部 スポーツ国際学科 後藤彰教授からコロナ禍の大学の様子等挨拶と報告があった。

表彰・・長年同総会に寄与された方々に今年度は、吉崎義人さん、佐野純夫さん、小林孝行さん、渡辺 宏さんの四名の表彰があり高田会長より授与された。

次に議事に移り三辻陽夫議長の下①令和四年度役員（案）、②令和三年度活動報告、③令和三年度会計決算報告、④令和三年度会計監査報告、⑤令和四年度活動計画（案）、⑥令和四年度会計予算（案）について、それぞれの担当者から説明がなされ承認された。最後に小橋川副会長の閉式の辞と続き滞りなく総会は終了した。特に活動報告の

中で、コロナ禍にもかかわらず、同会の教育支援委員会（委員長大瀧吉夫委員長、河合朝晴副委員長）による後輩への支援として、教員採用試験に向けた指導助言を手厚く実施している報告があった。

また東京都同窓会主催で年二回ゴルフ研修会を実施しており、今年度も十二月二七日に実施予定である。これで通算八回目を迎え、毎回三十名ほどの参加があり盛況である。

引き続き十三時十五分より 東京都同窓会と東京都保護者会の合同の研修会が始まった。

講師は、「日本労働者協同組合 姫路地域福祉事務所」所長菊池威臣氏である。

菊池氏は、本学東京都出身柔道部所属、卒業後日本青年海外協力隊でホンジュラスに派遣、任務終了後JICAボリビア・コロンビア調整員を経験し

た五十八歳の方でした。

「テーマ・挫折・リストラでも大丈夫 不屈の日体魂」コロナ禍や不況で保護者の皆さんもご子息のことを心配していられっしゃるでしょうが、私も大学卒業と同時に逆境と挫折の連続と闘いながら幾多の苦勞を乗り越え今日を迎えています。我が日体大で学びえた者は、不屈の精神でいかなる困難を乗り越えていくバネがあると熱く語ってくださいました。

講演後、保護者会、会長から我が子も社会の荒波にめげずに「不屈の日体大魂」で困難な時代を乗り切ってくれることと願っているとの謝辞が述べられた。

懇親会はコロナ禍の為開催を見送った。

三年ぶりの開催となった東京都同窓会総会は、コロナ禍の中、執行部会を間断なく続け開催できたことは全国の模範となった。次年度以降更なる

発展につなげ日体大世田谷キャンパスの本陣である東京都同窓会ここにありを全国に示していく所存である。同窓会、会員諸氏のさらなるご協力に期待して東京都同窓会総会の報告と致します。



日本体育大学
東京都同窓会

総会講師
日本労働者協同組合
姫路地域福祉事務所所長

菊池 威臣 氏

「體育富強基」

「質実剛健」「団結和協」

ロシアによるウクライナへの理不尽な攻撃、未だに収束しないコロナウイルス、低迷する日本経済など暗いニュースが飛び交う昨今ではありますが、今まさに、校歌にある「質実剛健」強い心身をもって、「団結和協」みんなが一致団結し、我が日体大の創設者日高藤吉郎先生の唱えた建学の精神「體育富強基」（體育は豊かな国を作る基）、體育を学んだ人間として豊かな国になるよう卒業生がそれを実践するときではないでしょうか！

かくいう自分は、六月の同窓会総会・保護者会で講演をさせていただいた際に、卒業後の波乱万丈の人生を振り返りながら、タイムリーで発生していた今年度約三千万円の事業を失った件についても、「日体魂」と天性の鈍感力で「何とかなる」と宣言しておりましたが、何と、八月に四千万円の新規事業を獲得する

ことができました。もちろん、口を開けていたら事業が落ちてきたわけではなく、公示案件を徹底的に調べました。通常、うちの事業所のできる分野（貧困対策、学童保育）の案件は年度途中で出ることはありません。内容を確認すると、厳しい案件でしたが、応募を決定。企画提案型ですので、仕様書を読み込んで、競合相手に勝てる企画書と見積りを約2週間で作成しなければなりません。やると決めたら、後は気合と根性（ここは日体魂）、プラス創意工夫を凝らした企画書を寝る間を削って作るのみです。企画書は合格し、次はプレゼンテーション。プレゼン用のパワーポイント資料を作り、練習を何度か重ねプレゼンに参戦。試験官八人相手の質疑応答は、何度も修羅場をくぐってきた私の得意とするところであり、相手の質問に合わせた回答をし、数週

間後には合格通知を頂きました。九月から事業を開始せねばならず、それまでに二十名が作業できる事務所やスタッフ、事務用品の確保など、大忙しです。なんと、そこにも他県への異動の辞令発令。無理を言っただけで、二か月以内に事業を軌道に乗せて異動すると約束を取付け、十月末に滋賀の百人超のスタッフを抱える事業所に異動しました。コロナが発症するスタッフもいますが、コロナが避けていく勢いで琵琶湖近くを走り回っています。

スタートで、とても大変なことを書きましたが、私自身、目の前の業務に忙殺される毎日です。各卒業生それぞれのステージ（職場）をお持ちだと思います。卒業生だけではなく政治家もそうですが、それぞれの分野の日本国民がそのステージ上で使命を全うしていれば、日本全体がよくな

と考えているには私だけでしょうか？



令和四年度
日本体育大学
関東地区連絡協議会
群馬県大会報告

関東地区協議会
会長 高田 幸一

関東・北信越地区協議会が別れて、初めて、関東地区協議会が令和4年に群馬県で開催されました。コロナ禍の状況でありましたが、ご参加いただいた皆様とともに、本部同窓会・学校法人日本体育大学に対し心よりお礼申し上げます。

また、協議会開催に際し、二年間ご準備いただきました群馬県同窓会の

ご努力に深く感謝いたします。

さて、コロナ禍でどこの県も活動の制限が起きました。前回より協議課題であった各県の同窓会の活性化、女性や企業、在校生への取り組み状況から新たな課題等、今後に生かせる貴重なご意見交換ができました。この流れを来年以降にも皆様が、継承、発展させていくことを願っております。

日本体育大学は、松浪健四郎理事長のもと、130年になろうとする歴史をもとにスポーツ系大学の中でさらに発展つづけております。私たち同窓会は、母校発展に寄与すること、を大きな目的とし、これから地元を固め新たな同窓とともに支援していく所存であります。結びに

なりますが、ご参加された皆様の魂が集約された群馬県同窓会作成の報告書が、次の指針となることを期待し、お礼の言葉とします。



日本体育大学同窓会
群馬県同窓会

会長 清水 洋

九月二十四日（土）、令和四年度日本体育大学同窓会関東地区協議会・保護者会関東ブロック代表者

会が群馬県安中市の磯部ガーデンホテルに於いて、同窓会・保護者会合同開催という形で開催され、学校法人日本体育大学より松浪健四郎理事長、今村裕常務理事、石井隆憲学長をはじめたくさんのお客様、そして同窓会関係者・保護者会関係者に参加していたことができました。

今回の同時開催は、

同窓会・保護者会共関東大会が群馬県で開催されることになり、同窓会と保護者会が話し合って、互いの会の活動等を知ることにより今までにないメリットがあるのではないかと思いい、初めての同時開催といえました。

同窓会は、前回までは関東・北信越協議会でしたが、保護者会と同じ7ブロック

ク制とし、関東地区協議会と新編成され、令和二年が第一回目の協議会となる予定で準備を進めてまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染症防止の為に二年間延期となつてしまいました。関係する皆様には大変迷惑をかけてしまいました。改めて皆様に感謝申し上げます。

各分科会では、事前アンケート結果を元に、話し合われた主なことは

第一分科会…「コロナ禍で衰退した活動の活性化」、「会員・会費の確保」、「同窓生の確保」等

第二分科会…「地元への就職の相談・支援」、「女子部の活性化」、「教育実習等について」等

第三分科会…「会報の作成について」、「SNSの発信等」、「事務局のスリム化」等

保護者会…「大学の近況報告」、「保護者の近況」、「二十四時間学生相談窓口」等

※同窓会・保護者会共に上記以外の事も話し合われ、大学への要望もありました。意義ある分科会になったことと思います。

また、参加した方々からは好評をいただきましたのは、全体会Ⅱでの来賓の講話・報告でした。どの講話・報告にも真剣にも真剣に聞き入っていました。保護者会の方々はコロナの関係で普段聞くことが出来ない校友課長大海先生の話にはうなず

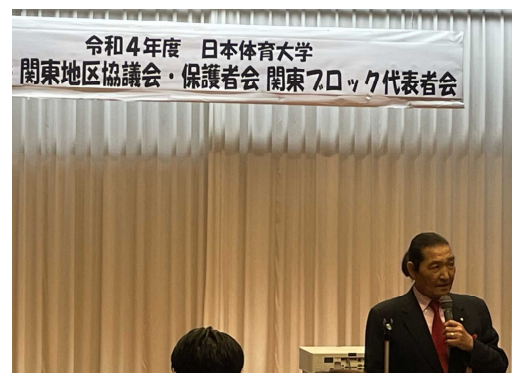
きながら聞き入っていました。そして松浪健四郎理事長の五十分の講話には、普段聞くことが出来ない日体大の歴史から始まり、学校経営・戦略まで分かりやすく話していただき、大変素晴らしい話となりました。

今回の合同開催はたくさんの方から大変好評をいただきました。合同開催で学び得た様々な事は、大学・保護者会・同窓会が一体となつて他大学にはない、発展する日体大となるのだなと感じとれました。改めて日体大卒で良かったなと思える一日でした。

結びになりますが、参加していただいた全ての方々に感謝申し上げます。

日本体育大学

東京都同窓会
副会長 竹内 定雄



同窓会関東地区協議会が新型コロナウイルス感染症の影響で三年ぶりに九月二十四日～二十五日群馬県安中市で開催されました。

第一分科会（会長副会長会議）での東京都としての報告事項について。活動状況では年次総会開催について各県ともコロナ禍で苦慮している現状が報告された。

東京都は、今年の総会開催までの活動報告を書面で提出した。

また、新会員の加入と同時に役員の若返りを進めている現状を報告した。役員全員が集まる会議の開催は不可能なので執行役員のための会を毎月開催して問題点を確認しあっていること。保護者会とも連絡を取り合いともに発展するように努力している（共催で研修会の開催）等報告した。

教育支援委員会活動、

広報委員会の（日体魂）の発行、ホームページの管理等各県より評価されたようでした。

コロナ感染症の影響で同窓会活動が制限されている今、活動が大きく後退することのないように会員相互の連絡を取り合いながらこの難局を乗り越えたいと思う。

令和四年度

教育支援委員会報告

教育支援委員長

大瀧 吉夫

今年度は、第一回の委員会からすべて対面で会を開催することができました。しかし、開催場所が新型コロナウイルス感染防止の対策もあり、日体大を使うことができず、用賀駅近辺の貸し部屋にて諸活動を実施することになりました。会場確保については高田会長に多大なご苦勞をおかけしました。大変感謝いたします。

第一回支援委員会…四月二十三日（土）委員会組織の確認・運用規定・四年度活動日程・教員採用試験講座日程の検討。第二回支援委員会…十月十五日（土）教員採用試験直前指導報告・教育実習巡回指導特別教授反省会準備。第三回支援委員会十一月十九日（土）教育実習巡回特別教授反省協議会・五年度実習校割り付け。又、臨時に十二月二十四日（土）採用講座の指導講師が指導内容等の共通理解を図るために河合副委員長を中心に

研修会を実施しました。当日は日体大東京都保護者会から7名の方々が委員会活動を見学に来ました。我々の熱い討議に感動されていました。

教員採用試験対策講座は前期・後期に分け、前期は受験対象者、後期は四年度受験者以外を対象に実施しました。前期は四月三十日（土）、五月七日（土）、五月二十一日（土）、七月二日（土）の5回実施しました。例年この時期は教育実習と重なり参加希望は少なく、受講生も少なく課題を残しました。しかし受講生の五十パーセントが一次を突破することができました。後期は十月二十九日（土）、十一月二十六日（土）、令和五年二月四日（土）の5回実施しました。参加人数は累計四十六名でした。教員採用試験講座準備講座時期の課題解消のために前期の期間を教育実習前にすることを執行部会で

決定し、令和五年一月十四日・十五日・二十八日・二十九日、二月十八日・十九日、三月四日・五日・十八日・二十五日・四月八日・十五日と強化することになりました。又、後期は十月一日から十二月二十三日を予定しています。



令和四年度
東京都教員採用試験
夢が叶った！
合格者の声

小峰かのん さん

私は東京都特別支援学校、中高保健体育の枠で合格をいただくことができました。入学当初は通常学校の保健体育教諭を目指しておりましたが、特別支援教育に関する授業を受ける中で、障がいのある方々に対する認識が大きく変化したことが、特別支援教育に興味を持つたきっかけです。現在は、特別支援学校教諭になり生徒に身体を動かすことの楽しさを知ってほしい、成功体験を積んで自信をつけてほしいと思っています。

私が本格的に教員採用試験の勉強を始めたのは三年生の十二月頃です。焦りはあるのに何をしたら良いのか分からない状

態でした。そこで、まずは大学で開かれる基礎セミナーや教職ブースを最大限に活用し、一般教養、教職教養、論文の対策を進めました。一次試験が終わった後はすぐに二次試験対策集中講座に参加し、面接、集団討論、実技の練習を反復して行いました。

森優 美香 さん

私が合格することができたのは大学の環境や先生方、東京都同窓会支援委員会の方々、教員を目指している仲間たち、そして支えてくれる家族の存在があつたからです。一人では絶対に合格することはできませんでした。

私の周りには東京都の特別支援学校教諭を目指す仲間が一人もおらず、孤独を感じることも沢山ありました。しかし、対策講座に参加したことで、教員になりたいという強い意志を持った学生やそれを全力で支える先生方に出会うことができました。沢山の友達と意見交換をし、日々新しい発見や刺激をもらうことができる環境があつたおかげで、私は合格を掴むことができました。とても感謝しています。これから教採を受ける方々は、周りへの思いやりや笑顔を忘れずに、自分に

記しました。専門教養は競技・種目のルールなどをまとめ、過去に出てくることをマークし、予想しながら覚えめました。そして論文は先輩の論文を真似することから始め、1週間に1テーマは必ず書きました。

二次試験の面接で大切にしたことは自分に自信を持ち、意見を伝えること、声、表情です。マスクを付けていても分かる表情を意識して行いました。さらに解答は事前に考えるのではなく、その場で試験官や受験者たちとの会話を楽しみました。実技は練習する場を設けて下さったので積極的に参加し、一次試験で得た知識を基にポイントを意識して行いました。

改めて周囲の環境や人物が当たり前ではないことと、恵まれていることに気づくことができました。これから教員になり変化するいく環境や出会う仲間、先輩方、全ての

ことに感謝の気持ちを忘れずに過ごして行きます。

濱崎 大誠 さん

私は、大学の先生や先輩、教職センター、東京都同窓会支援委員会、教員を目指している仲間たち、そして家族の支えがあり、東京都教員採用試験に合格することができました。決して一人の力では合格することができませんでした。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

今回、教員採用試験を通して大切に感じたことは、「人との繋がり」です。私は、教職ゼミナールや教学舎にも入っていませんでした。教員採用試験の対策を始めた当初は、周りに教員採用試験を受ける仲間がいまませんでした。しかし、毎週教職ブースに通ったり、教職の先生方のもとへ積極的に伺ったりすることを

通して、自分自身一段と成長できましたし、さらに教員採用試験に合格した先輩や教員採用試験を受ける同じ仲間と出会うことができました。応援してくれる先輩、一緒に合格を目指す仲間がいたおかげで自身のモチベーションにも繋がりが、最終的には合格することができました。人との繋がりは教員になっても大切なしていきたいです。

これからは、東京都の教育に携わるわけですが、今後も向上心を持ち、「学び続ける教員」でありたいと考えております。まずは、一日でも早く立派な教員になれるように、日々の教員生活から一つ一つを学び、教員としての資質能力を高めていきます。そして、感謝の心を忘れずに、東京都の教育に最善を尽くしていきます。

最後に、東京都同窓会支援委員会の皆様には大

変お世話になりました。
今後ともお世話になるこ
ともあるかと思ひます
が、引き続きよろしくお
願ひします。

「御礼と感謝」

日本体育大学
スポーツ文化学部教授
後藤 彰

日頃から本学の教員養
成をはじめとする様々な
取組等に対しまして、ご
理解とご支援を賜り、心
から感謝申し上げます。

おかげさまで、本学も
今年で創立百三十二年を
迎え、これまでの歴史と伝
統のもと社会の期待等に
応える人材育成や社会貢
献に邁進しているところで
す。

そのような中であつて昨
年は、文部科学省が認証
する評価機関である「公
益財団法人日本高等教育
評価機構」による認証評
価が実施されました。こ
れは、七年に一回実施さ
れるもので、その目的は、
大学等の研究・教育の質の
向上と改善を支援するこ

とにあります。

具体的には、大学や学
部を作るときに国が定め
た基準を満たしているか
どうかを厳しく審査して
いますが、大学が完成した
後、その基準が守られてい
るか、研究・教育が適切に
行われているかをチェック
する公的な仕組みがあり
ません。そのため国は、大
学に対し、自己点検・評価
を行い、それを改善につな
げるよう求めるとともに、
それを第三者機関によつ
て検証することとしたの
が認証評価です

その内容は、定められた
規準ごとに評価を行い、
「優れた点」、「改善を要
する点」等を大学に示す
ものです。

この認証評価結果におい
て、本学の教員養成の取
組が評価されました。「教
員養成プログラム」による
系統的な教員養成、「日
体教学舎」を中核とした
実践的なプログラムによる
取組等が評価されまし
た。このことは、松浪 健
四郎理事長より令和五年
新年のあいさつにおいても
述べられていました。

このような評価をいた
けたことは、同窓会の皆
様の熱いご支援とご協力
による賜物であり、この書
面をお借りして心から御
礼申し上げます。

今年度（令和四年度実
施）の教員採用試験の結
果は、令和四年十一月十
一日現在の途中経過です
が、公立学校（小学校、中
・高等学校、特別支援学
校等）の現役学生の合格
者六十七名（期限付を含
めると七十五名）であり、
合格者だけで見ると昨年
度より七名の増となつて
います。その他にも大学院
生や助手の方々などもい
ることから、最終的な合
格者数は更に増えること
と思います。また、卒業生
で教職センター主催の教
員採用試験二次対策に参
加した方々も合格したと
の報告を多数いただいて
おります。

このような状況につい
て、前段で記述させていた
だきましたが、松浪 健四
郎理事長の令和五年新年
のあいさつにおいて、「昨年
の中・高等学校の教員採
用試験合格者数は、日本

一であつた。」とのお話が
ありました。

このような結果は、長
年にわたりご尽力を賜つ
た同窓会の皆様の献身的
なご支援とご協力のおか
げであると心より感謝し
ております。

今後とも、引き続きご
支援の程よろしくお願ひ
申し上げます。

令和五年度も本学は、
社会の変化とともに異次
元の少子化等に対応する
ため、様々な改革を進め
ていくとの話が、令和五年
新年のあいさつの中であり
ました。

具体的には、「新校舎の
建設の推進と新学部設置
に向けた準備」、「健志台
キャンパス学生寮の移転」
等が動き出します。また、
創立150周年に向けての
準備も始めていくとのこと
です。

いつの時代にあつても、
日本体育大学は「日体魂」
のもと同窓会と力を合わ
せて、輝かしい歴史と伝統
のもと、より魅力ある大
学を目指して進んで参り
ます。

どうぞ今後ともお力添

えの程、よろしくお願ひ申
し上げます。



日体教学舎学生諸君
写真提供 後藤教授

日本体育大学 東京都同窓会 ゴルフ研修会報告

第八回ゴルフ研修会報告
優勝 市川 幸一 さん
(昭和五十九年卒)

第八回ゴルフ研修会が
令和四年八月二三日花咲
カントリーにて開催され
ました。今回最も感動し

た事は、中垣範保様のエイジシユート（スコア八十五）です。

奇しくも中垣様は私の父と同じ八十七歳と伺い、更に驚きました。

月並みですが、「やはり日体の先輩は凄い！」の一言です。

「エイジシユートは五十回位かなあ」と、涼しい顔で呟やかれた横顔が心に残りました。

お陰さまでとても晴れやかな一日を過ごすことができました。

このような会を準備して下さった高田会長はじめ役員の皆様方に感謝申し上げます。

第九回ゴルフ研修会報告 優勝 松岡 弘悟 さん (平成三年卒)

令和四年十二月二十七日（金）、埼玉県川越カントリークラブで第9回ゴルフ研修会が開催されました。大変冷え込む日でしたが、総勢十六名が参

集して第1組七時十八分西コースからスタートしました。スタート前には、オヤつと心配になる場面もありましたが、元気にティショットを放ち、澁刺とコースに向かいました。私は2組目でしたが、グリーン上は所々凍っている場所もあり、最初のホールは8となり、これは苦勞するなど下を向いていました。川越カントリークラブは、1963年（昭和三十八年）開場で中村寅吉が設計に関わっているそうで2年後には日本プロゴルフ選手権も開催されています。ちなみに、その時の優勝賞品はオートバイだったそうです。伝統あるこのコースでプレーできたことに感謝するとともに、ハندیキャップを二十一・六もいただき、カップまで貰えるという光栄に恐悦至極に存じます。一緒にラウンドしていただいた大塚先生、牛島先生に感謝申し上げます。あり

がとうございました。私事になりますが、令和4年度から狛江市教育委員会に派遣になりました。前任は、大森第一中学校で角杉先生から三代後の学校経営を任され、令和2年度当初の学校臨時休業により入学式が前日に中止となる事態の中で分散登校による生徒との対面でした。新しい学校生活という題目が示されて、三密の回避や手洗い・消毒の徹底等々、職員は奮闘してくれました。感謝です。着任の年度は運動会を中止しましたが、合唱コンクール、卒業式は実施し、子供たちや家庭の協力もあって無事に乗り切ることができました。子供たち・保護者に感謝です。2年という短い期間でしたが、同じ地区に竹内先生という心強い方がいて様々な相談できたことは支えとなりました。ありがとうございました。さて、第9回大会は、

最終組の到着後にコンペルームで表彰式が行われました。最終組を待つ間に教員養成に関わる話を聞かせていただき、教育委員会に勤める身にとって大変貴重な時間となりました。日体大の現状も知ることができて、大変充実した一日となりました。休暇を取ってよかったです。



訃報 東京都同窓会広報委員会 金城 和貞 様（昭和51年卒）が令和4年6月23日にご逝去されました。金城氏におかれましては、「日体魂」の編集、ホームページの運営に尽力されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記 訃報の通り金城氏が亡くなり、「日体魂」編集の大変さがわかりました。また、ホームページについても新規作成を進めております。これからも、力強い新メンバーとともに一致団結し、内容を分担しながら広報活動に尽力してまいります
広報委員会一同

問い合わせはメールで nssu.tokyo.doso@gmail.com